

連載



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント

パラリンピック・ムーブメント事例紹介

〔群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会〕

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて、国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、各クラブや総合型クラブ連絡協議会が実施しているオリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

わくわく交流フェスタ2016

- 実施日時 平成28年12月11日(日) 9:30～15:00
- 実施会場 ALSOKぐんま総合スポーツセンター内
ぐんま武道館 大道場・第三道場
- 参加者数 251名(県内15クラブ) ※講師、役員含む
- 主催/主管 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- 共 催 (公財)群馬県スポーツ協会

<パラリンピック・ムーブメント>

パラリンピックスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、より良い社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動

※「第2期スポーツ基本計画の策定について(中間報告)」参照

1 企画経緯

年度当初の企画委員会において、2020年を見据えて、障がい者がクラブへの参加を考えたとき、まずは健常者と一緒に参加できる種目を知っておくことが大切であるとの意見がありました。そこで、県立盲学校に勤務されている直井由香先生（アテネパラリンピックのゴールボール銅メダリスト）をはじめとする3名の方に、今回のゴールボール体験会の講師をしていただきました。

また、県障がい者スポーツ協会の協力により、県ボッチャ協会を紹介していただき、ボッチャの体験会も実施できるようになりましたので、同時に2種目の体験が可能となりました。

2 企画内容

午前は、ラジオ体操・ZUMBA・ダンス&音楽系の発表があり、午後から「パラリンピックを体験しよう」ということでゴールボールとボッチャの体験会を行い、参加者を2班に分け、それぞれの種目を45分交替で行いました。

ゴールボール（講師3名）

【ルール】

目隠しをして鈴の入ったボールを交互に転がしあい、自陣ゴールを守りながら、敵陣ゴールに入れることで得点する競技です。前後半の12分ハーフで、より得点を入れたほうが勝利となります。コートに入る選手は1チーム3人です。



【当日の流れ】

まずはゴールボール競技の歴史やルールを紹介いただき、実際の競技映像を視聴し、ゴールボールの理解を深めました。その後、講師にデモンストレーションをしていただき、参加者もゴールボールを体験しました。

目を開けた状態でお互いにスロー（投げる）&セービング（止める）を行い、その後、目隠しの状態で同じようにスロー&セービングを行いました。ボールには、鈴が入っているため、会場を静かな状態にしなから行いました。



ゴールボールの講師「直井先生」によるスローイングの実技。的確なコントロールに参加者一同から驚きの声上がる。ボールを受けた人はスピードとボールの重さに驚きを隠せなかった。



音を頼りにボールのコースを確認する難しさを体験することで、パラリンピックでのゲームがいかに高度なことをしているのかを知る。時間の関係上ゲームまでは行えなかった。

| ボッチャ (ボッチャ協会関係者13名)

【ルール】

まず先行側がジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールを投げ、その後赤(先行側)、青(後攻側)の6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりすることで、いかに持ち玉をジャックボールに近づけるかを競う競技です。すべて投げ終わった時点で、相手側よりもジャックボールに近い球数が得点になります。

障がいの重い方でも、足を使ったり、ランプ(滑り台のような補助器具)を使ったりすることで投球が可能になります。



【当日の流れ】

まずはボッチャのルールとゲームの仕方を紹介いただき、その後、各コートでボールを投げる練習を行いました。練習後は、子どもチーム対シニアチームといった具合に、対戦形式でゲームを行いました。

また、周藤穂香さん(ボッチャ現役プレーヤー)がゲストデモンストレーターとして、ランプを使った高い技術を披露されました。



ボッチャは、ルール説明のあと3つのグループに分かれて、3人ずつのチーム戦を行った。ジャックボールにいかに近づけるか？ 相手ボールを近づけさせないようにするか？ 頭脳戦の始まり…。

一球投げる毎に盛り上がり、ため息をついたり、子どもも高齢者も一緒になって楽しいひとときを体験した。今度は障がいのある方も一緒にゲームをできたらと、今後の展開に広がり膨らませた。

3 参加者・運営側の声

| 参加者の声 (実施後)

- 一日、楽しく過ごすことができたが、パラ種目はもっと時間があっても良いと思いました。
- 直井先生も周藤さんもそれぞれの種目において卓越した技術を持っておられ、参加者からは「すごい」「素晴らしい」の声が多数聞こえました。
- パラ種目は、障がいのある方と一緒にプレーできることはもちろん、子どもも高齢者も同じルールで実施できるので、クラブ内で行う種目としては最適であるように思いました。
- 簡単に実施できる種目ですが、奥が深く知れば知るほどおもしろいものだと思います。

| 運営側の声 (実施後)

参加者250名程度と予想し、武道館を使用しましたが、今後さらに参加者が増えることを考えると会場設定が難しいと思いました。次回、同様の企画を行う場合は、時間設定に余裕を持ち、

最後にゲームが楽しめる内容に改善したいと思います（ゴールボールは試合を行うことができなかった）。

今回のフェスタに学校関係者が4～5名来ており、障がい者の方との交流にゴールボールを利用したいと言って見学されていました。盲学校の先生方は、自分の学校のチーム指導もありますが、依頼があれば普及にも協力してくれるとのことであり、今後につながりました。

4 今後の展望

バリアフリーの考え方において、一緒にスポーツを楽しみ、スポーツを通して明るい社会づくりができることを目指したいです。これを機会に各クラブにおいては門戸を広げ、障がいがあっても気軽に参加できる雰囲気作りに役立ててもらいたいです。

今後も障がい者が健常者と一緒に行える種目をさがし、各クラブに紹介をしていきます。

(群馬県クラブアドバイザー 小林 秀光)

● 群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会プロフィール ●

設立年月日：平成22年3月27日

所在地：群馬県前橋市関根町

■ 連絡先

郵便番号	371-0047
住所	群馬県前橋市関根町800 ALSOKぐんま総合スポーツセンター内
TEL	027-234-5555